

平成 26 年度中間決算の概要について

〔平成 26 年 12 月 18 日〕  
一般社団法人 第二地方銀行協会

会員行の平成 26 年度中間決算（単体）の概要は以下のとおり。

（注）計数は平成 26 年 9 月末時点の会員行 41 行ベース（特記ある場合を除く）。

**1. 損益概況（業務純益：1,420 億円、経常利益：1,505 億円、中間純利益：1,112 億円）**

平成 26 年度中間決算の業務純益は、資金利益および国債等債券関係損益の減益、一般貸倒引当金戻入額の減少により、1,420 億円と前年同期比△250 億円、△15.0%の減益となった。

経常利益は、業務純益が減益となったものの、個別貸倒引当金繰入額が減少したことにより、1,505 億円とほぼ横ばいとなった。

中間純利益は、特別損失の減少により、1,112 億円と同+52 億円、+4.9%の増益となった。

**2. 業務純益の状況**

**(1) 資金利益（4,346 億円、前年同期比△169 億円、△3.7%）**

資金利益は、前年同期比△169 億円、△3.7%減益の 4,346 億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金残高（平残）は増加したものの、預貸金粗利鞘の縮小により、同△121 億円、△3.4%減少して 3,465 億円となった。

また、有価証券利息配当金は、同△72 億円、△7.5%減少して、882 億円となった。

**(2) 役務取引等利益（396 億円、前年同期比+23 億円、+6.2%）**

役務取引等利益は、投信窓販業務手数料、保険窓販業務手数料がともに増加したことにより、前年同期比+23 億円、+6.2%増益の 396 億円となった。

**(3) その他業務利益（230 億円、前年同期比△56 億円、△19.6%）**

その他業務利益は、国債等債券関係損益の減益等を主因に、前年同期比△56 億円、△19.6%減益の 230 億円となった。

**(4) 経費（3,605 億円、前年同期比+33 億円、+0.9%）**

経費は、3,605 億円と前年同期比+33 億円、+0.9%の増加となった。

### 3. 経常利益および中間純利益の状況

経常利益は、業務純益が減益となったものの、個別貸倒引当金繰入額が減少したことにより、1,505億円とほぼ横ばいとなった。

中間純利益は、特別損失の減少により、1,112億円と同+52億円、+4.9%の増益となった。

### 4. 不良債権処理額（与信関係費用）の状況

不良債権処理額（与信関係費用）は、前年同期比△291億円減少し、4億円の戻入となった。

また、金融再生法開示債権は、破産更生等債権、危険債権、要管理債権がいずれも減少したため、前年度末比△910億円、△6.0%減少の1兆4,352億円となった。開示債権比率は同△0.22%ポイント低下して3.04%となった。

### 5. 単体自己資本比率〔国内基準40行〕（自己資本比率：10.20%）

単体自己資本比率は、中間純利益による利益剰余金の積み上げにより、自己資本額が増加したため、10.20%と前年度末比+0.02%ポイント上昇した。

### 6. 預金および貸出金（末残）

#### (1) 預金（62兆6,250億円）

預金（末残）は、前年同期末比+1兆7,687億円、+2.9%増加して62兆6,250億円となった。預金者別にみると、要求払預金を中心に一般法人預金および個人預金はともに増加した。

#### (2) 貸出金（46兆6,462億円）

貸出金（末残）は、前年同期末比+1兆3,652億円、+3.0%増加して、46兆6,462億円となった。

以 上